

「国際大会に関して押さえておくべき主要トピック」講座

2-3 DE&I・アクセシビリティ

DE&I・アクセシビリティ

DE&I (Diversity, Equity and Inclusion) とは

手引き
P.23,76

DE&I・アクセシビリティ：背景・求められる方向性

- ▶ 多様性 (Diversity)、公平性 (Equity)、包摂性 (Inclusion) を尊重し、ジェンダーや年齢、国籍、宗教等の異なる様々な人々が差別されことなくスポーツに参加できる環境作りの重要性についてIOCをはじめ国内外の大会・競技団体が取組を進めている。

近年の動向

公平で、包摂的、そして性自認や性の多様性に基づく差別のないIOCの枠組み

- ▶ IOCが示した、公平で、包摂的、性自認や性の多様性に基づく差別のない競技参加のための原則集。
- ▶ **各競技団体が、競技の特性に応じて参加資格基準を作る際の指針**
- ▶ **オリンピックアジェンダ2020+5を土台に設計**

具体的な提言（一部抜粋）

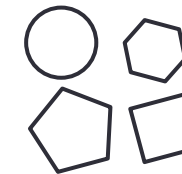


公平で、包摂的、そして性自認や性の多様性に基づく差別のないIOCの枠組み

- ▶ **差別を受けることなく、健康、安全、尊厳が尊重される方法でスポーツを行う権利を誰もが有している。**同時に、競技スポーツ（中略）大会の信頼性は、どのアスリートも（中略）同じ競争条件に基づいているかどうかにかかっている。
- ▶ この枠組みは、IOCが公約している**人権尊重の一環として、また、ジェンダー平等と包摂を促進するための行動の一環として発行**されるものである。

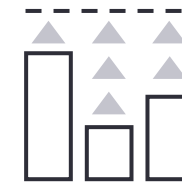
求められる方向性（一部抜粋）

多様性 (Diversity)



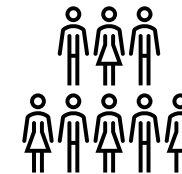
- ▶ アイデンティティ等にかかわらず、誰もが安全に参加できる環境を整備する
- ▶ 外見や身分で不当な優位性を推定しない

公平性 (Equity)



- ▶ 男女カテゴリーの公平性を守るために、参加基準は競技ごとに設計する
- ▶ エビデンスに基づき、ルール・制限を策定する

包摂性 (Inclusion)



- ▶ ハラスメントなく、安全・安心に運営する
- ▶ 自己決定した性自認での参加を原則認め制度的排除を禁止する
- ▶ 透明性のある意義申立窓口等を担保する

アクセシビリティ



- ▶ 施設・運用を誰でも使いやすく快適にする
- ▶ 参加資格等の情報・申請経路をアクセスしやすくする（ルール設計、相談先明示等）

DE&I・アクセシビリティ：実現するための枠組み

競技大会ごとに、DE&I・アクセシビリティに係るガイドラインを策定し、具体的な取り組みを進める上で、大前提となる定義を事前にしておくことが肝要。また、実務上は、このようなガイドラインを策定していくプロセスそのものも重要である。

具体事例：アクセシビリティガイドライン（愛知・名古屋アジア競技大会）

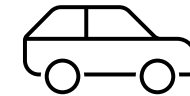
位置づけ・目的

- ▶ 対象：第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ大会
- ▶ 基本方針：既存施設の活用を前提に、観客・選手ほか全ステークホルダーが使いやすい環境を国際水準で整備すること
- ▶ 波及効果：大会に直接関わらない主体の自主整備を促し、インクルーシブな地域づくりを目指す

基準体系と適用の考え方

- ▶ 概要：どの会場で・どの水準（標準・推奨）を使うか、もし満たせない時はどう補うかを定める運用上のルール
- ▶ 基準体系
 - ✓ 標準基準：各種法令・自治体の指針・東京2020大会での「標準」・万博の「規制」等の中で、最も厳しい数値・水準を採用する
 - ✓ 推奨基準：標準基準に上積みした、より望ましい水準
 - ✓ 新設会場：推奨基準を基本とする（最低でも標準は必達）
 - ✓ 標準・推奨基準のクリアが構造上無理な場合でも、国義務基準は必達。その上で、仮設・運用で同等のサービスを実現する等の対応が必要

主な整備要件（一部抜粋）



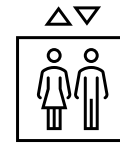
車両乗降ゾーン

車両スペース、その隣の乗降スペースの幅等を定義



ホテル

室数標準を定義。車いす使用者用客室の整備とユニバーサルデザイン適用を推奨



エレベーター

ドアの有効幅を定義。公共部・競技会場とそれ以外で要件を区別

策定のプロセスについて



有識者との折衝

有識者会議やヒアリングなどにより、ガイドラインの内容のすり合わせを実施



ガイドラインの更新

有識者からのフィードバックを踏まえ、更新を実施

担当者とは有識者が連携し、ガイドラインを作るプロセスが重要

DE&I推進の取り組み事例

①DE&Iにおける具体的な取り組み事例：東京2020大会

両性のバランスの取れたメディア表象



開会式で各国男女1名ずつのアスリートが旗手を務めるよう奨励され、多くの国が遂行した

写真出典：[朝日新聞GLOBE+記事](#)

ガバナンスにおける女性リーダーシップ育成



女性の橋本聖子氏が会長に就任。理事における女性の割合も、42%にまで引き上げた

写真出典：[読売新聞記事](#)

選手村における多様性への配慮



ベジタリアンやハラール等、様々な食文化・宗教に配慮した食事を提供したり、オンラインでの多宗教サービス（礼拝の録画配信、個別カウンセリング）を行うなど、多様性に配慮して選手村を運営

写真出典：[THE DIGEST記事](#)

史上最もジェンダーバランスの取れたオリンピック



女子選手比率が過去最高水準、混合種目も大幅に拡大

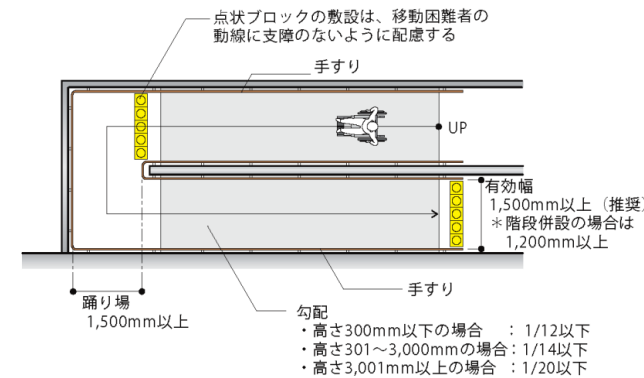
写真出典：[日本経済新聞記事](#)

②アクセシビリティにおける具体的な取り組み事例

会場内のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化



国立競技場は、「世界最高のユニバーサルデザイン」をコンセプトの一つに掲げる。
車いす用の客席：約500席、
アクセシブルトイレ93カ所等を
整備した



通路や傾斜路等の幅や勾配、
踊り場の広さ等、
「アクセシビリティ・ガイドライン」にて
詳細に定めた

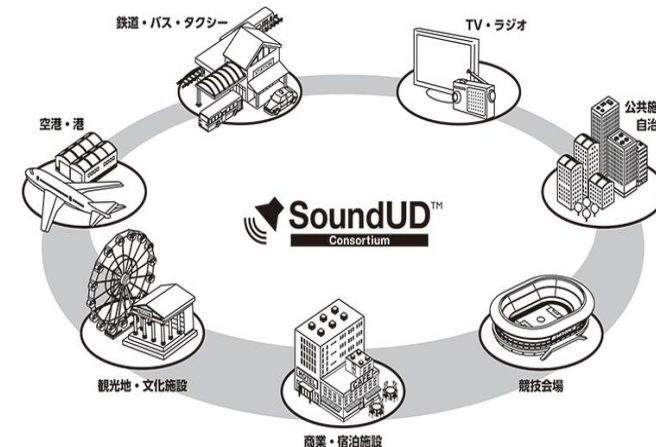
出典：公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会『[Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン](#)』

ピクトグラムの活用



国際化するアスリートや観客と
視覚的なコミュニケーションが
求められるため、
ピクトグラムを大きく表示することで
視認性を向上させた

音のユニバーサルデザイン



音や位置情報をトリガーに
文字等で情報配信することで、
スマホで誰にでも分かる形へ
変換して届けるプラットフォーム

出典：東京都『[多言語対応の取組報告書－東京2020大会に向けてー](#)』